



♡ 2017
新年 謹賀

今年の干支「酉」にあやかり
陽に向かい未来に羽ばたき
輝ける年になりますよう
祈念申し上げます

平成二十九年 元旦

特集
やいたの新たな試み

謹賀新年

明けましておめでとうございます

皆さまにおかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

—昨年を振り返って—

昨年4月に市政をお預かりすることになってから、間もなく9カ月になります。

この間、市内各地域の課題を把握し、きめ細かな行政を展開するために、行政区ごとに「未来づくり懇談会」を開催してきました。「未来づくり懇談会」でお聞きした市民の皆さまの声をしっかり受け止め、満足度の高い市民生活が送れるよう努力いたします。

—新年を迎えるにあたり—

本年は、「第2次21世紀矢板市総合計画後期基本計画」および、「矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に定める、住みよい住環境を確保し将来にわたって活力ある社会を維持していくため、より一層の施策推進に努めるとともに、就任当初から掲げている「子どもや孫が帰ってくるまちづくり」の

実現に向けて、「矢板で安定した仕事を創る」「矢板で新しい人の流れを創る」「矢板で結婚、出産、子育ての希望を叶える」といった取り組みを具体的に展開していきます。

「矢板で安定した仕事を創る」ために、矢板南産業団地への企業誘致に一層力を入れるとともに、矢板市版の中小企業・小規模企業振興条例の制定等による地場産業の振興にも取り組んでいきます。

「矢板で新しい人の流れを創る」ために、(仮称)矢板北スマートICのアクセス道路整備に加え、片岡駅東口広場等の整備にも新たに着手します。

また、スポーツと観光を結びつけた「スポーツツーリズム」を推進し、交流人口の増加と地域経済の活性化に結びつけていきます。

「矢板で結婚、出産、子育ての希望を叶える」ため、安定した雇用や社会基盤整備と合わせ、子育て世代の経済的負担の軽減や定住しやすいまちづくりの推進などに取り組んでいきます。

—むすびに—

市民の皆さまのお力をお借りしながら、時には進んで汗を流していただきながら地域間競争に勝ち抜き、ふるさと矢板をよりにぎやかな、明るいまちにして次の世代にバトンタッチしていきたいと願っております。

本年が皆さまにとりまして、幸多き年となりますよう心からご祈念申し上げ、年頭にあたってのご挨拶といたします。



▲スポーツツーリズム協議会設立総会の様子

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、市政ならびに市議会の活動に対しまして、皆さまの温かいご理解と力強いご支援により、円滑な議会運営ができましたことに、心より感謝し厚くお礼申し上げます。

—昨年を振り返って—

新しい都知事の誕生や、政務活動費の不正使用問題が大きく取り沙汰されるなど、国民の関心が政治に向けられた年でありました。

とりわけ、矢板市におきましても、4月に県内で最も若い齋藤市長が誕生し、市民の目もより市政へと向けられることとなった年でもあります。

矢板市を取り巻く環境は、基幹財源である市税収入が、引き続き減少する一方、民生費が年々増加傾向を示すなど、依然として厳しい行財政運営を余儀なくされております。

その反面、取り組むべき課題は少子高齢対策をはじめとして多岐にわたり、広範かつきめ細やかな行政サービスが求められるとともに、地方創生を推進し、活力に満ちた矢板市を実現することが早急の課題となっております。

こうした状況において、地方議会の役割は、ますます重要になっており、矢板市議会はこれまで、その責務を着実に果たすべく、一昨年4月に施行いたしました『矢板市議会基本条例』を基本理念として、



▲議員全員で議会改革に取り組む

各種改革に取り組んでまいりました。一昨年より開催しております「議会報告会・意見交換会」をはじめとするこれま

での取り組みを引き続き継続するとともに、昨年は新たに市議会ホームページに、議長交際費の支出状況を公開し、11月からは、政務活動費に係る全ての書類を公開したところでございます。

—新年を迎えるにあたり—

本年4月からは、県内市議会に先駆けて、政務活動費を後払い方式とすることを決定し、導入に向けて鋭意準備を進めているところであります。

矢板市議会は、市の意思決定機関として、今後とも皆さまの目線に立って、皆さまの負託に応えることのできる、身近で、開かれた議会運営を心掛けていきたいと存じます。

—むすびに—

皆さまにとりまして、本年が幸せで実り多い、大いなる飛躍の年となりますことをご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

矢板市長
齋藤 淳一郎

矢板市議会議長
中村 久信

やいたの新たな試み

やいたの「未来の創造」を目指して、新たに取り組み始めた3つのことについて紹介します。

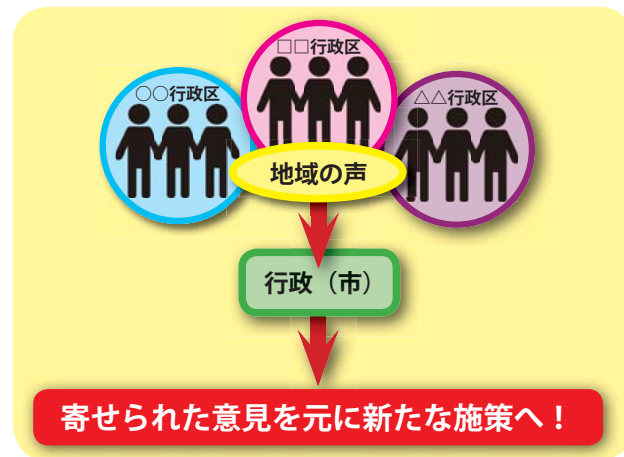
未来をつくる ～未来づくり懇談会～

良い施策は傾聴から生まれる

「未来づくり懇談会」は、地域住民の方々と市長が直接意見交換を行い、矢板市の抱えている課題を理解していただくとともに、より詳細な地域単位での実情や要望を把握し、きめ細やかな行政を推進するために、平成28年7月より開催しているものです。

現在、69行政区のうち、21行政区で実施し、平成29年度末までに全行政区で開催する予定です。

今後のスケジュールは、広報やいたのおとなカレンダーや班回覧のチラシでお知らせしていきますので、お住まいの行政区で開催の際は、積極的にご参加いただき、ぜひ皆さまの声をお聞かせください。



声を新たな施策に反映



▲未来づくり懇談会の様子

泉地区の全14行政区で開催した「未来づくり懇談会」では、合計227人の方にご参加いただきました。皆さまからいただいたご意見を、いくつかご紹介いたします。

【主な意見】

- Q1：防災行政無線が聞こえない。
- A1：現在は、メール配信サービスへの登録、放送内容が確認できる電話サービスで対応いただいております。今後は聞こえ具合の調査検討を行い改善に努めます。

泉地区では、シカやイノシシなどの有害獣による被害が年々増加しており、出没する地域も広範囲に拡大しているため、対応を求める声が多く上がりました。被害が深刻であり速やかに対応する必要がありますため、右記のような対応を行いました。



- Q2：スマートICの進捗状況を教えてください。
- A2：平成19年度から計画してきたスマートIC設置構想ですが、関係機関との協議を積み重ね、平成28年6月に高速道路への連結許可を取得できました。来年度以降、道路などの設計のほか、地権者の協力が得られ次第、工事発注できるよう努めます。
- Q3：泉地区にコンビニを作ってください。
- A3：民間企業が行うもののため、設置の可否についてお答えすることはできません。行政として、県道矢板那須線バイパスや矢板北パーキングエリアのスマートIC整備などのインフラ整備のほか、八方ヶ原など泉地区の観光資源PR等を行い、コンビニや商業施設が進出しやすい環境を整備していきます。

【対応策】

平成29年4月に「鳥獣被害対策実施隊」を設立する計画を立て、その活動を速やかに行えるよう今年度から準備することにしました。捕獲活動や駆除活動を強力に推進するため、平成28年度12月に補正予算を計上し、捕獲に必要な罠などの物品を購入するための補助金を交付することにしました。

枠を超える ～チャリ旅！ 矢板那須広域サイクルツーリズム事業～

地域連携の鍵は「自転車」

平成28年1月に策定した「矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で、スポーツツーリズムの推進を掲げ、スポーツを核とした矢板創生の取り組みを始めています。

那須町でも同様の取り組みを行っており、自治体の枠を超えた地域の連携により、各市町の施策の相乗効果を狙う目的があります。

那須町では、プロ自転車チーム「那須ブルーゼン」が拠点を置くなど、自転車を活用した観光誘客が盛んです。

また、矢板市でも、那須町同様に自転車のレースやイベントを行うことで観光客の増加を図る取り組みを行っています。このことから共通のテーマである「自転車」を活用した地域連携「チャリ旅！」を始めます。

地域の強みを活かし、「自転車」を観光資源に

矢板市は、交通インフラが集中し県北を訪れる観光客の玄関口として、また各市町への経由地となっていることから、魅力あるコンテンツを創造することで、通過する「矢板」から目的地と成り得るポテンシャルを有しています。

観光地として有名な那須町との連携により、東京圏から那須へ直接向かうのではなく、矢板を経由・滞在する動機づけをすることで交流人口の増加を図ります。

那須町にとっても自転車を核とした誘客の取り組みを県北地域一体で行うことで、多くある観光施設や宿泊施設へ、新たな集客を見込むことができます。

お互いの強みを活かすことで、新たな顧客の獲得や雇用の創出を図り、自転車での誘客効果を農業、商工業、観光業に波及させ、地域経済全体の活性化を目指していきます。今後、隣接する大田原市や那須塩原市とも連携し、県北地域が一体となって取り組むことも考えています。

現段階では、「自転車＝観光資源」という認識をお持ちの方が多くいますが、将来的に「自転車＝観光資源」となるための取り組みを市民の皆さまと一緒に考えていきたいと思っています。



◀今後、大田原市や那須塩原市を含めた、県北地域が連携することで、多様な周遊ルートの設定をすることができるようになるため、より観光客のニーズにあったコンテンツの提供が可能になります。

次世代に引き継ぐ ～環境文化都市やいた創造会議～

矢板最大の魅力は「自然」

高原山をはじめとする自然豊かな環境は、矢板の宝であり、多くの方がまちの魅力であると感じています。

このような素晴らしい環境を次世代に引き継いでいくため、「環境文化都市やいた創造会議」を設立し、協働

による環境づくりに取り組むこととしました。

この会議では、市民や県内の大学生などによる座談会やワークショップ（体験型講座）など、地域の魅力を再発見するための活動を実施しています。

自然環境への関心を高めるために



▲塩田ダムでのカヤック体験の様子

塩田ダム周辺の豊かな自然環境を感じるため、普段立ち入ることのできない塩田ダムを利用して、カヤック体験や生き物調べを行いました。



▲フクロウの巣箱設置の様子

里山林が失われたことによって減少した、フクロウのための巣箱を設置しました。私たち人間の生活と動植物の関わりを再認識し、生物多様性の大切さを学ぶ機会となりました。